

平成28年 第2回伊那地域協議会会議録

開催日	平成28年6月10日(金)								
開催時間	開 会	午後6時00分			閉 会	午後7時15分			
開催場所	伊那市創造館 講堂								
委員の出欠 出席24名 欠席15名		委員氏名			委員氏名			委員氏名	
	1	板倉 倫顕	出	16	伊藤 和義	出	31	岩本 庄平	欠
	2	守屋 武夫	欠	17	西澤 茂也	欠	32	高橋 陽子	出
	3	伊藤 仁	出	18	藤澤 香澄	欠	33	唐木 由美子	出
	4	久保村 友保	出	19	若林 一雄	出	34	鈴木 優子	出
	5	白鳥 始	出	20	池上 直樹	出	35	平澤 澄穂	欠
	6	細田 幸一	出	21	宮下 平治	欠	36	武田 登	出
	7	中村 初治	欠	22	畑 英城	欠	37	平賀 裕子	出
	8	宮下 信一	出	23	中村 繁子	出	38	小林 正	出
	9	中村 隆幸	出	24	小林 旬子	欠	39	井口 清吾	出
	10	伊澤 芳人	欠	25	向山 昌江	欠			
	11	有馬 久雄	出	26	中村 良一	出			
	12	酒井 秋雄	欠	27	小池 弥生	出			
	13	林 典男	出	28	増田 良平	出			
	14	米窪 砂男	欠	29	細田 勇次	欠			
15	平澤 徹	出	30	武田 禎祐	欠				
署名委員	伊藤 仁			白鳥 始					
条例第10条の規定により出席した者	なし								
市側の出席者	なし								
出席した事務局職員	総務部長 原 武志 地域振興課長 宮原 貴敏 地域振興係長 飯島 勝 地域振興係 橋爪 智美								
議 事	協議事項 (1) 伊那市協働のまちづくり交付金事業選考について (2) 伊那地域協議会年間計画について (3) その他								

配布資料	資料 No. 1 伊那市協働のまちづくり交付金事業の選考方法 資料 No. 2 伊那市協働のまちづくり交付金事業選考シート 資料 No. 3 伊那地域協議会年間計画 参考資料 伊那市協働のまちづくり交付金事業2次募集チラシ
------	--

1 開会

久保村副会長により、定刻に開会する。

(欠席の報告)

2 あいさつ (会長より)

協働のまちづくり交付金事業の選考結果について承認をいただく必要上、前回の会議から短い期間での開催となり欠席者が多いが、よろしくお願ひしたい。本日は、まちづくり交付金の選考結果のほか、地域協議会の年間計画が主な内容である。議論をするというより、ご了承いただくことが多いと思う。

3 会議録署名人の指定について

(会長)

会議録署名人に3番 伊藤 仁委員、5番 白鳥 始委員を指名する。

4 協議

(1) 伊那市協働のまちづくり交付金事業選考について

(事務局)

伊那市協働のまちづくり交付金事業の選考結果について説明。

<質疑・応答>

(委員)

2-2だが、70万円の要望に対して8万4千円の交付決定だが、この交付額だと事業が実施されないこともあるか。

(事務局)

交付決定については、地域協議会の意見を付して一部採択ということで、実施団体に連絡をする。その際に、この交付額では事業を実施することが困難で、要望を取り下げ事業を実施しないという判断は、実施団体に任せる。

(会長)

No2の上伊那子どもサポートセンターはNPO法人に認定されていて、上田にある桜国際高校の分校として、不登校状態の高校生等を対象とした事業を実施している。校舎はないが、いなっせの部屋を借りて、元高校の先生等がマンツーマンで指導している。現在は生

徒が8人いて、その内伊那市内の生徒は2人。県及び伊那市教育委員会等から補助金の交付や高校からも支給があるようである。何年も事業は実施してきていて、その一部を伊那地域協議会の交付金として要望をしている。

(委員)

内容は理解した。2-3だが、このプロジェクトの対象としている人はどんな人たちか。

(事務局)

事業の周知の仕方が、SNSやネットを使って募集をかけたり、中心商店街にチラシを置いたりして参加者を募る。細かいことをいうと伊那地域協議会の範囲の方だけを対象としているわけではなく、興味を持った方は誰でも参加できる。実施する場所が中心市街地としており、参加者もできる限り伊那地域協議会の区域の方の参加を多くしたいということである。

(会長)

現在再募集をしているので、また新たな申請がされると思う。今回申請のあった3事業の選考結果については、ご了承願いたい。

< 異議なし >

(2) 伊那地域協議会年間計画について

(事務局)

伊那地域協議会年間計画について説明。

< 質:疑・応答 >

(委員)

小グループはいくつで何名ぐらいを予定しているのか。

(事務局)

グループの数だが、4項目の課題があるので4つのグループを作る予定。委員が39名いるので、概ね1グループ10名前後と考えている。

(委員)

4つのグループに分けてということだが、今年度初めて委員になったので、4課題についてももう少し踏み込んだ内容を説明してほしい。グループの希望を出すにあたって参考にしたい。

(事務局)

前回1回目の会議で「今期のまとめ」という前期の地域協議会の協議した内容をまとめた資料を配付してある。その資料で次期地域協議会へ引き継ぐ形で4項目が提案されており、その1番目から3番目までを今回の項目としている。また、前期の地域協議会のグループ討議で市街地の空洞化や商店街の活性化について話し合っているが、さらに検討いただければということで4番目のテーマとしている。前期の地域協議会のまとめの資料を確認していただく中で、さらに詳しく内容を知りたいということであれば、会議録を確認いただきたい。

(委員)

前期の地域協議会から引き続き委員をしている方はいるのか。地域協議会の委員に今回初めてなるメンバーで話し合うことになるのか。前期に委員を経験している方がいれば、その方を4グループに割り振って、経験のない委員とうまくグループに分けてもらえれば、話し合いがスムーズに進むのではないかと。

(事務局)

何人かの委員は前期から引き続いて委員をしていただいている。希望を取る中で、引き続きの委員がうまくばらけるかどうかということところだが、グループの中に1人は入っていただけのよう、希望を取ったうえで、そういったことも加味しながら決めさせていただきたい。

(会長)

今回4月から任命された委員は大きく代わっていて、前回から引き続きの委員は少ない。前期の協議会で積み残した課題があり、それは学区の範囲で検討してきて残された課題である。ゼロからのスタートと思って、問題としてどんなものがあるか理解していただいて、今後どうしていくのかは今期のメンバーで考えていただきたい。課題によっては1年2年かかるかもしれないし、場合によっては次の協議会に積み残すこともあるかもしれない。今期のメンバーで前期の協議会で積み残した課題について話し合っていく。前期との関連性はほとんどなく、自分が検討したい課題のグループに入っていただければよい。答えがあるものではないので、みんなで知恵を出し合って話し合っていただきたい。

(事務局)

グループ分けについては、4項目のどの項目について自分が討議していきたいか第1希望から第3希望まで書いてもらい、第1希望でみなさんがバランスよく分かれればそのまま希望した課題を検討していただくことになる。あまりにも人数が多かったり偏りが大きければ調整をさせていただきたい。

(会長)

時期的な予定はいつごろか。

(事務局)

そういう方向で良いということになれば、早々に希望調査を郵送させていただいて、7月の半ばまでにグループを決めて次回の協議会を開催したい。

(委員)

課題を検討して、それがどういう形で行政に反映されるのか仕組みがわからない。

(事務局)

今指摘のあった点が地域協議会の存在意義で、伊那地区には区長会があるが、その組織とは別枠で地域づくりや仲間づくりを検討し課題解決していく組織が地域協議会である。ただいま示されたスケジュールに従い、提言をまとめていただき、それを市で受け取り市長に伝える。受け取った提言を行政としてどう考えるかお返ししていく。地域協議会で検討された結果は採用あるいはうまくいかない場合もあるかと思うが、必ず提言に対してお返しして、みなさんの提言を有効に活用させていただきたい。

(委員)

非常に大きな課題が上がっているが、このメンバーで総合的に検討して提言してもなかなか難しい問題だと思うので、1本か2本に絞って検討していくのがいいと思う。

(事務局)

今回は4つの課題に絞ったが、いずれもかなり難しい課題であり、伊那地域にとって重要な問題である。また、伊那地域の課題であると同時に他の地域協議会が8つあるが、事業年度の統一や自治会への加入といった課題は、当然他の協議会にも係わる課題である。大変難しいテーマであると認識しているし、前期の委員から1から3番については来期も検討してほしいと引き継いだ課題であるので、これについては新しいメンバーで新しい視点で検討していただきたい。今年1年間議論してもまとめまで至らないこともあるかもしれないが、地域の課題としてみなさんに検討に関わっていただきたい。テーマを絞ることによって市に伝え易いということもあるかもしれないが、事務局としては、4つの課題の検討結果を市長に伝えてまいりたい。

(委員)

項目についてだが、「中心市街地の活性化」とあるが、もう少し地域を広げて伊那地域全体を見つめてはどうかといった提案をすることもできるのか。

(事務局)

テーマとしては4つの項目を絞ったが、検討する中で中心市街地から周辺地域まで広が

る課題であると意見としてまとめれば、そういうまとめ方でよいと思う。

(委員)

行政年度の統一と自治会への加入促進の課題は伊那市全体に関係することだと思うが、他の地域協議会では問題として上がっていないのか。

(事務局)

自治会の加入促進については、議会の一般質問でも取り上げられ、区長からも度々意見が出ている。年々未加入者が増え、人口が減少する中で、区の運営に支障をきたすことが今後危惧されるとも聞いている。市としても自治会への加入促進に向けてパンフレットを配ったりしているが、抜本的な方策を地域のみなさんの知恵を借りて提案いただければと思う。市内各地区においても、提言や意見をいただいている。高遠の地域協議会でも意見が出ている。大きな課題テーマになるが、市としても方向性が見い出せればよいと思っている。

(委員)

いくつか協議会があるわけだが、一つでも反対の地域があれば市としてはできないということか。伊那地域協議会で提案したことはどうなってしまうのか。

(事務局)

それぞれの地域協議会で課題が違い、伊那地区の場合においては4つの課題を検討していくことになるが、事務局の情報共有する場もあるので、地域協議会の検討課題についてお互い共有していきたい。自治会の年度の切り替えや、自治会の加入促進は共通の課題なので、他の地域協議会でも研究していこうという広がりを感じたいと思う。今意見があったように、9つの協議会の中で反対の協議会があった場合、必要に応じて反対された地域のみなさんには説明に入って調整をすることもありますが、最終的に行政の判断ということになるかと思う。

(会長)

伊那地域協議会で前期の委員が4つの課題を見つけるところまで来たが、そのまま積み残してきたので、次の地域協議会で検討してほしいというくらい難しい問題である。簡単には解決できない問題が残っており、簡単に解決できる問題、例えば伊那街道に看板を立てるといったことは単年度で実施してきた。比較的实现しやすい問題は実施して形になったものがある。残されている課題は大変難しい問題だが、検討をしていき方向ができれば市長へ提言していく。

(委員)

市議会議員の方がもっと決定権があって、普段考えていないのか。

(事務局)

行政へ提言する立場の方としては、市議会議員も地域代表としている。議会を通じて議論し、必要なものであれば予算化して実行することになる。行政年度の切り替えや自治会の加入といった課題は一般質問でも出てくる。お互いにどうすれば100%いいのかという結論はなかなか導きだせられないが、それぞれ議論する中で進んでいくケースもある。議員は議員の立場で地域をまとめていくことが必要かと思うが、今回の場合は地域協議会の住民の代表のみなさんで意見をまとめていただければと思う。あくまでもこのメンバーの意見としてまとめてほしい。

(委員)

地域協議会では何をしているのだと、地区でぎくしゃくしたこともあった。今回委員になってみて地域協議会の役割が少し見えてきた気がする。区長の立場では単発的な発言しかできなかった。区長としてどういうふう提案・提言していくかということができなかった。是非期待したいのが、今回のような大きなテーマ、区の方たちも頭を抱えているテーマである。区長には地域協議会ではこんな提案がされていると相談しながら良い提案結果を出していきたい。何年かかるかわからないが、区長会ではできないことを違う立場の組織が進めていくことも良いではないかと思う。

(会長)

協議会は歴史が浅い活動なので、うまくいくこともあるし、なかなかうまくいかないこともある。先程市議会議員の話が出たが、市議会議員は市議会議員の立場で市のことに関わっており、私たちは一般市民として関わっていく。区長とも違う。そのあたりが、毎回議論に登場するところであるが、だんだん分かっていくことかと思う。

(委員)

一人の市民としてまちづくりに関わるなかで、最初は自分たちのできることをコツコツやろうという感じであった。やりながら限界のあるところもあり、行政と一緒にできたら、何か解決の糸口があるのではと思うこともあった。協議会は、活動の中で改善したいことを直接提案できる機会でもとても画期的な場であると思っており、大変期待している。私も委員に委嘱され、良いチャンスだと感じているので、委員をやりたいという方がいて、それがボランティアで自発的に関わるようになる日がきたら良いと思う。

(会長)

今後の私たちの進むべき道を語っていただいたように思う。みなさんの協力で少しずつでも進んでいくという気持ちを持っていただければと思う。

年間計画については、今ご意見いただいたことも加味して、計画に沿って進めてまいります。

(3) その他

(委員)

選考基準の不採択の要素になる項目の本来自治体というのは、市なのか区なのか聞きたい。選考シートに事業対象者の欄も設けてほしい。資料には右側の綴じ代をつけてほしい。

(事務局)

本来自治体が行う事業でないかというのは、市を示している。対象者と綴じ代の件、今後考慮して資料を作成する。

(委員)

まちづくり交付金の申請についてだが、私はまちづくりの事業をしているが、私が関わっている事業を申請することは可能なのか。関わる団体が申請した事業については、選考委員から外してもらってかまわない。選考委員をしていることが理由で、交付金を申請できないのでは悲しい。

(事務局)

当然、加入されている団体が申請することはかまわない。その事業を審査するときは、選考委員から外れていただくという臨機応変な対応としたい。

(会長)

再募集を7月25日まで行っているので、委員のみなさんも各団体にいき地域づくりに関係する事業を申請していただきたい。良い意見がたくさん出て、地域協議会の原点について勉強になったと思う。以上で協議事項は終了した。

4 その他

(事務局)

前回の会議で会議録署名人の印がないのを見たという意見があったので確認をした。昨年度までは会議録をみなさんに配付しなかったのですが、もし会議録があるのなら、議事録署名の内容確認のために送られたのを見たか、市のホームページで会議録を公開しているので、ホームページから印刷したのを見たかのどちらかだと思う。また、押印したものは印影が個人情報にあたるということで、原本は事務局で保管している。今年についても、議事録署名人には署名をしていただくが、委員のみなさんには押印はしていないが確認したものを配付することをご了承願いたい。

(委員)

議事録は会議に配られないということは今初めて聞いた。市のホームページで公開され

るから配付しないとっていいか。議事録を作るということを第1回の会議で言われて、当然議事録は配られると思っていた。そういうことは事前にはっきりと説明しておいていただきたい。

(事務局)

前回、議事録は配ってほしいと意見をいただいているので、今期は委員に配付したい。ただ、1回目の議事録がまだ作成中で、出来たところでみなさんに配付したい。ホームページにも掲載するので、ご了承願いたい。

6 閉会

(副会長)

3件の交付金についてはご了承いただきありがとうございます。これからもご協力をお願いします。以上をもって、本日の会議を閉会する。

本会議に会議録を作成し、会長及び会議録署名人において下記のとおり署名する。

平成28年6月10日

平成28年度 第2回伊那地域協議会 会議録

会 長

会議録署名人

会議録署名人